

## 着物は楽しい！ ～着物学校に入って一年～

アグニェシュカ・ポヒワ



大学1, 2年生のころ先生に着物を着せてもらって、同級生何人かで写真を撮ったのが初めての着物体験でした。それから留学、卒業などを経て日本に引っ越してきてしばらくは、着物を着る機会は数回程度しかなく、周りにも着物を着る人は一人もいませんでした。私はファッション

が好きなので、古着探しにリサイクルショップに行くと、着物コーナーの前で必ず立ち止まって見とれていました。「なんだかおもしろそうだけど、よくわからないなあ」という気持ちいっぱい、私にとって着物はただただ遠くから見つめる珍しいものでした。

### 着付けを習おうと思ったきっかけ

ところが着付けを習おうと思ったきっかけは、いくつかあります。私はフォトグラファーとして仕事をしています。私の夫もフォトグラファーです。彼の知り合いの美容師さんと撮影現場で何回か会って仲良くなりました。彼女は着物学校の卒業生で、着物の話も何回か出ました。いつかモデルさんに着物を着せてカッコいい作品を創りたいなど、なんとなく空想している私に、ある日夫が「着物に興味あるなら、着付け習えば？」と言い出しました。それで実際に考えてみると、これはチャンスかも、と思いました。私は外国人で、女性で、日本に住んでいて、しかも日本語をしゃべることができます。そして、日本文化を学んできて、これからも学んでいきたい私は、着付けができれば写真にも結びつけられるし、年齢を重ねてもできます。仕事でも個人でも楽しめる一生残るスキルではないかと思えます。また、ファ

ッション業界で見られる面白く、かっこよく、クリエイティブに和服を取り入れた写真を撮ろうとすると、いずれは理解と知識の不足の壁にぶつかりそうな予感もしていました。そのため、まずは着物の基礎からしっかり学んで、着物文化を理解したうえでクリエイティブワークに結び付けたほうがより深いコンテキストを持った作品ができるのではないかと思います。お稽古を始めることにしました。

### 着物を着る楽しみ

人に着付けるために習いはじめた私ですが、お稽古や学校のイベントのおかげで、自分で着物を着る楽しさもわかってきました。着物のコーディネートだけではなく、着方によって自分の気持ちも変わってくることに気づきました。改まった宴会でお稽古で習ったきれいな着物の着方をするときの優雅な気持ち、友達との飲み会では着物と洋服を合わせたロックな気持ち、近所のラーメン屋に行こうとジャケットの代わりに羽織を着た時のゆるい気持ち。毎日あらゆる場面で和服を取り入れてみると楽しみが増え、着物のおかげで人生が豊かになりました。

現在、高等師範科に通っていますが、着付けのコツだけでなく、例えば私の好きな日本の服飾史のなかでの着物の変遷なども学べるので、お稽古が興味深く、手だけではなく頭も働かせるきっかけにもなります。どんどん着付けが上手になって、また近いうちにかっこいい写真が撮れたらいいなお稽古を頑張っています。そして、いずれポーランドの素敵な民族模様を日本の民族衣装の着物に移して自分の着物ラインをデザインしたいなと思って、只今スキルと知識を重ねながら仕込み中です！

(Agnieszka Pochyla, 運営委員、2018.3)

## 《第85回例会》ブロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念 講演と朗読と映画の集い～ポーランド、サハリン、北海道～

会場:北海道大学学術交流会館 1F 小講堂、日時:2018年7月29日(日)13:30～

(1)講演:井上紘一(北大名誉教授)、佐々木史郎(国立民族学博物館名誉教授)、新井藤子(北大大学院修士課程)、(2)朗読:長屋のり子/自作詩「チュフサンマの悲歌(エレジー)」、白井順/花崎皋平作/長編物語詩「チュフサンマとピウスツキとトミの物語」、酒谷茂靖/土橋芳美作「痛みのペンリウクとバフンケ」(仮題)、(3)ドキュメンタリー映画:ピウスツキ・ブロニスワフ～流刑囚、民族学者、英雄 Pilsudski Bronislaw — zesłaniec, etnograf, bohater. Film o Bronisławie Pilsudskim, starszym bracie Marszałka Pilsudskiego (TVP, 2016, 日本語字幕付き)

[入場無料]

